

総序文 (日本語)

中医薬とは、深遠な哲学思想と養生の智慧が結集した、中国古代科学の至宝であり、世界の伝統医学における優秀な代表であり、中華民族から世界の皆様に向けた「贈り物」である。地球規模での飛躍的な経済の発展により、人々のライフスタイルが変化したことで、疾病の系譜や医学モデル、健康に対する概念も大きく変わってきた。そのため、各国の健康・衛生方面では、未曾有の問題に直面している。こんな時代において、中医薬は自らが持つ高いポテンシャルと顕著な治療効果によって、世界中でさらに歓迎され始めている。

現代において、国際交流の秩序を維持し、科学技術の進歩を促進する重要な手段とは、国際標準化である。世界的な交流が盛んになる昨今、中医薬の情報・医療・教育・科研なども、国際標準化の要求がますます切実なものとなっている。2009年、国際標準化機構ISOは中医薬技術委員会（ISO/TC249）を成立させ、現在までに中医薬に関する20項目の国際標準化を発布している。世界中医薬学会連合会は2003年の設立以来、中医薬の国際標準化に取り組み、国際化に向けての重要な担い手となって、21項目の国際組織標準を研究・制定・推進してきた。現在、すでに中医の基本名詞・医学用語の多言語翻訳基準を9種類発布しており、関与している言語は、中国語・英語・フランス語・スペイン語・ポルトガル語・イタリア語・ハンガリー語・ロシア語・ドイツ語・タイ語などに及ぶ。これら医学用語の標準化によって、中医薬における統一された、規範のある、正確な言語を世界に発信することができる。

日本における中医薬の歴史は長い。5世紀（今から約1500年ほど前）、中医は朝鮮半島から日本に伝えられ、16世紀には本格的に発展した。その後、明治維新の頃、日本に西洋医学が入ってきた当初、西洋医学のことを「蘭方」と呼び、それと区別するために中医を「漢方」と称していた。近代になって、西洋医学における化学薬物の副作用や医療費の高騰が問題になり、自然植物による化学薬物の代替医療が再注目され始め、中医は日本でも非常に重要な存在となった。この数世紀の間に、日本では中医薬が各界の著名人の間でも支持を受け、中医薬文化はさらに輝きをはなち、中医教育も浸透して、中医学と西洋医学の交流も盛んになり、日本に幸せを運んでいる。

そこで、日本で中医薬に従事している方々、興味をお持ちの方々が、中医薬

を正確に理解し、学習や利用の利便性を高めるために、2017年11月、世界
中医薬学会連合会と株式会社GKT（本草薬膳学院）が『中医基本名詞術語中日
対照国際標準』の共同制作に合意する署名を交わした。本草薬膳学院の学院
長・辰巳洋博士は専門家の研究団体を組織し、国際標準化の研究・開発を行
い、草稿を作成し、広く日本国内で各方面の専門家に意見を求めた。

『中医基本名詞術語中日対照国際標準』が普及することで、中医薬の常用名
詞や医学用語を日本語訳する際の規範となるだろう。正確で統一された医学用
語が普及することで、中医薬が日本でさらに浸透し、臨床実践や科学研究、商
品の貿易などに活かされる基盤となって、中医薬の国際発展に重要な意義を持
つと確信している！

ここで、本辞典の審査基準に参加された各専門家の皆様に、心より感謝を申
し上げます。皆様が実直で慎み深い姿勢で学術研究に臨まれ、誠実に団結して
困難な作業に貢献いただいた精神に深く敬意を表します！

李振吉

世界中医薬学会聯合会創会副主席兼秘書長

2018年4月北京にて